

| | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 平成16年度岩手県工業技術研究推進会議 材料技術部会議事録 | (実施日) 平成16年10月26日(火) |
|----------------------------------|-------------------------|

| |
|-----|
| 総 評 |
|-----|

| | |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A委員 | 以前に比べ目標、方法、出口(成果)がはっきりしてきた。以前は研究員が個別にテーマ出し数年研究後成果を移転する企業を探すスタイルであったが、最近は売れて何ぼの研究に変わってきた。ある程度研究成果の形が見えたら市場調査ターゲットを絞ることも必要。ひとつの研究が実用化されるまでには主要研究の2~3年だけでなく、提案(アイデア)~基礎研究~大型研究(あるいは主要研究)の長い段階があったと思われるのでプレゼンテーションではそのようなバックグラウンドを示して欲しい。 |
| B委員 | 何を目標としてどのようにやるかを明確にすべき。あいまいな目標、あいまいな手法はあいまいな結果に終わる。全体的には問題ないと思う。感動的な話としてテーマ全体が廃棄物の方向を向いている気がする。もっと新しい(研究テーマの)ベクトルがあっても良いのではないか。 |
| C委員 | 研究員には、工数0.何人とか配分され、いろいろな研究テーマや業務に頭の切り替えが必要であり、ご苦労様と思う。 |
| D委員 | ものづくりが基本であり、(そういう意味で)岩手の地域技術である鋳物の新展開が期待される。また、産業廃棄物など地域に密着した問題に、逆手の発想で(産業利用研究など)取り組んでいることは全国にPRできる。研究期間2年の区切りは短い、(2年の結果であきらめないで)継続して実施して欲しい。 |
| E委員 | 地域貢献(地域中小企業支援)と学会活動(特許、論文など)が公設試の役割。(岩手県は)そのバランスが良い。そのような環境の中で古手(熟年の技術者)をうまく使いながら若い人を育成してほしい。 |
| F委員 | 何を目標として、どのようにアプローチして、結果がどうであったか、その結果に対してどうしたかあるいは(今後)どうするかをアピールして欲しい。 |
| G委員 | 研究期間2~3年は短い。実用化研究ということで2~3年かと思うが、学術的に続けたい研究員もいるのではないか。また研究後の企業への調査(どのように成果が使われているかなど)が必要。 |
| H委員 | 出口イメージが明確になった。特許、論文、企業化など成果が出ている。特許売り上げなどの研究者への還元(例えば産総研では売り上げの何倍かが研究費として還元)が有っても良いのではないか。若手研究者の育成も重要。特許出願の柔軟性(時期や予算など)も必要。公設試の役割は地域中小企業の支援でありその機能を十分に果たしていると思うが、産総研の成果や制度も使って欲しい。 |
| 所 長 | ご指摘の市場化の強化、マーケティング調査の必要性は感じている。このため、今回から産業振興センターのH部長さんにも全部会に参加していただき、市場化の可能性についてご意見をお願いすることになっている。今後は、産業振興センターとも連携して市場化に取り組んでいきたい。 |